

令和6年9月10日

瀬戸市議会議長 小澤 勝 様

総務生活委員会 委員長 三宅 聡

総務生活委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和6年7月26日(金) 詳細は別紙のとおり
2 視察先	三重県四日市市 (人口307,017人 令和6年6月1日現在)
3 視察項目	橋北交流会館について
4 視察者及び随行者	総務生活委員会委員 委員長 三宅 聡 副委員長 新井亜由美 委員 山内精一郎、朝井賢次、西本 潤 石神栄治、三木雪実、臼井 淳 随行者 政策推進課課長補佐 大矢達也 政策推進課専門員兼 公共施設マネジメント係長 小川純 議会事務局 桂川和也
5 その他	なし

<p>1 事業の目的及び経緯</p>	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃校を子育て支援等複合施設として活用する <p>【廃校活用までの経緯】</p> <p>平成 25 年 4 月 西橋北小と東橋北小を統合し、西橋北小に「橋北小学校」開校</p> <p>平成 25 年 2 月から平成 26 年 3 月まで 地域住民 20 名参加による施設跡地利用協議会を計 13 回開催</p> <p>平成 26 年 12 月 工事予算上程</p> <p>平成 29 年 4 月 1 日 橋北交流会館オープン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃校となる東橋北小学校は耐用年数が相当程度残っていること、津波避難ビルに指定されていること、そして市内全体の公共施設配置の観点等を総合的に勘案し、建物を撤去することなく活用していくという結論に至った。 ・ 当該地域の既存の幼稚園、保育園、児童館等の子育て・子供関連施設にはそれぞれスペース不足や施設の老朽化という課題があった。そこで廃校を活用して、それら施設の機能を集約した新たな複合施設とすることで課題の改善を図るとともに、施設に新たに導入する機能については、地元住民からの要望等も踏まえ、当該地域に必要な機能を盛り込むことにした。
<p>2 事業の概要及び事業費</p>	<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供や子育てに関わる人たちが活動・交流する場として土日祝日も利用できる「こども子育て交流プラザ」をはじめ、子育て支援センターを備えた「橋北こども園」、令和 5 年 4 月から加わった「幼児教育センター」等で構成された複合施設である。子育て支援の機能をメインとしつつ、様々な世代の方々が集い、子供から大人まで活動、交流できるような地域の活性化に資する施設となっている。 <p>【事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改修費用 総額約 10 億円

	<p>(うち補助金額 6,950 千円) スポーツ振興くじ助成金を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営経費 (令和 5 年度決算額) 橋北交流会館総合管理業務委託料 38,280 千円 その他委託 (各種点検等)、修繕料、光熱水費等 8,651 千円
3 事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・廃校を活用することで、当時の当該地域における子育て・子供関連施設が抱えていた課題を解決しつつ、市民が活動・交流できる場も加えて整備することで、単なる公共施設の有効活用に留まらず、地域の活性化や交流の創出に資する施設とすることができた。特に毎日開館の「こども子育て交流プラザ」は児童館機能と共に子育て支援団体の活動拠点・情報交流の場となっており利用者は市内全域となっている。令和 5 年 4 月から開設した公私立の幼稚園・保育園・こども園にかかわる職員を対象に設置された「幼児教育センター」では様々な研修、各園の訪問・相談支援や情報発信・研究が可能になった。
4 事業の現時点での課題及び今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設の特徴を生かした活動を引き続き行っていけるように、それぞれの施設担当者間での情報共有や課題共有を行っていく。 ・指定避難所や津波避難ビルとしての役割もあり、建物や設備の維持管理をしっかりと行っていく。
5 主な質疑・応答	<p>【公共施設跡地活用の検討時について】</p> <p>Q、廃校活用事例集 P24「活用開始までの課題・苦労したこと」の中で、「各部局間で検討を進める一方で、どのようにして地域住民の思いを活用方針に反映していくかが大きな課題であった」とありますが、地域住民の具体的な思い（意見）には、本件以外にどのような意見がありましたか。</p> <p>A、①児童館として職業体験、自然教室、料理教室、読み聞かせ、木工教室の実施など。</p>

- ②サロン、カフェ、団らんスペース、イベント会場、展示コーナー、スポーツ活動の場など貸館、貸しスペース。
- ③専門講師による定期的な防災教室の開催など。

Q、なぜ他の意見（思い）ではなく、今回のこの活用方法に決めた理由について教えてください。

A、地域からの要望も踏まえつつ、市全体として必要な機能を盛り込んだ活用方針を決めて進みました。

Q、当該公共施設について、橋北こども園、幼児教育センター、子育て交流プラザ等、主に行政側が活用することになった理由と目的は何かについて教えてください。

A、当該地域では、既存の幼稚園や保育園、児童館等の子育て・子供関連施設が立地していたが、それぞれスペースの不足や施設の老朽化が課題となっていた。そのため、それら施設の機能を集約し、新たな複合施設とすることで課題の改善を図ったため、主用途が子育て支援施設となった。

【橋北交流会館について】

Q、施設が完成して、利用者の皆さんの声にはどのようなものがありますか。

A、（こども子育てプラザ）

- ・土日も開館しているのでありがたい。
- ・広くて自由に遊べるので良い。
- ・雨でも屋内で楽しく遊べる。
- ・おもちゃが充実している。
- ・スタッフの対応が手厚い。
- ・スタッフと話すことで親の気分転換になる。
- ・保護者同士の交流、情報交換ができる。

（幼児教育センター）

・当センターにおいて、市内の公私立施設類型にかかわらず、就学前施設に携わる職員を対象に研修や相談支援を実施することで、全市的に就学前教育・保育を推進していく機運が高まった。

（スポーツ課）

- ・体育館、グラウンドなど活動場所が確保できて良かった。

Q、令和5年4月から幼児教育センターとして再活用しているが、当該学校の廃統合から設置までどのような経緯

だったのか。

A、市教委としては、平成4年に新築した東橋北小への統合案を提示したが、地域からの要望で西橋北小への統合要望を受けた経緯がある。廃校活用の検討には地域住民の声を反映することができるようにした。

幼児教育センターを設置した経緯は、保護者のニーズの多様化・少子化における就学前施設の再編とともに、質の高い就学前教育・保育の充実を図る方針を令和2年度四日市市新総合計画基本施策に打ち出し、令和3年度、県内初の市が運営する幼児教育センターを令和5年度開設することを周知。翌令和4年度こども施設再編推進室を設置し、センター開設に向けた準備を進め、令和5年4月の開設に至った。

Q、当該施設はどの所管課が担当し、全て市直営で管理運営を行っているのか。

A、総合管理業務委託を行っており、維持管理に係る委託契約はこども未来課。

こども園、幼児教育センターは市立で保育幼稚園課。

こども子育て交流プラザは運営を委託しており、所管はこども未来課。

グラウンド・体育館は、夜間・休日の施設開放事業を委託している。所管はスポーツ課。

Q、年間でどれくらいの方が利用しているのでしょうか。

A、令和5年度年間利用者数

- ・こども子育て交流プラザ 37,709人
- ・幼児教育センター 8,746人（研修受講、訪問相談等）
専用ホームページアクセス数 90,922回
- ・体育館 13,666人
- ・グラウンド 10,819人
- ・地域活動室 延べ342団体
- ・橋北こども園（R5-4-1時点在園児数160人）

Q、高齢者の利用できるスペースはありますか。

A、橋北交流会館で高齢者の利用できるスペースはありません。

（1階の地域活動室は地元の橋北地区連合自治会に使用許可をしている。）

	<p>Q、こども園では夏にプールなどの取組みを行っているか。</p> <p>A、組み立て式プール（3m×5m）を使用してのプール活動をコロナの五類移行を機に6年度より再開している。なお、水遊びは毎年行っている。</p>
<p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p>	<p>① 橋北交流会館の運営には、総合管理業務委託料等を支払い、行政が運営している。本市における跡地活用は、財政負担を鑑み、民間の効率的な運営を期待している側面がある。どちらが正解とかはないが、橋北交流会館は、市民の意見やニーズを反映した事業運営の方策をとっており、見習うべき点が数多くある複合施設であった。</p> <p>② 改修費10億円に対し、補助金6950千円という補助金の少なさが目を引いた。財政が豊かである自治体との違い。本市ではまねができないと思う。 住民の意見が大きく、瀬戸市では市役所案に少し修正する又は提言を附帯するぐらいで、ここまでの変更はできない。四日市市はそれができているため驚きました。 施設については、空調設備など設計の段階でよく考えないと後から変更するのに大変で不便だということに改めて認識しました。</p> <p>③ 跡地活用に関し、早くより議会への説明や地元協議会開催を精力的に行い、早い段階で交流会館オープンとなったのは大いに評価ができる。 跡地利用に際して地元からの要望に関し様々なものが出された(老朽化している消防団車庫、技術を習得する展示、学習教室)模様であるが、子育て支援に特化して活用方針を打ち立てた事は評価に値する。</p> <p>まだ利活用が確定していない本市の学校跡地を想定しての視察であったが、地域に足りないものや、この地域の将来性を考えた具体的な行政案を説明とともに示し、それをたたき台にして、地元協議を進めていき、まずは新たな活用をスタートさせることが必要であると感じた。 橋北交流会館はスタート当初、地元の活動施設や企業OBによる相談支援の場といったものも創設されたが、現在は幼児教育センターといった保育士の就業継続と</p>

いう重要課題に特化した利活用の場となっている。
これは、とりあえずはスタートをした後のトライ&エラーの賜物であり、開設時に100%を考えるのではなく、まずはマストの機能をスタートさせ、その後に地元やその時の行政課題を考慮した機能を付随していった方が、より良い施設になっていくのではと考えさせられる事例であった。
今回の視察は大変有意義であり、常任委員会としても今後さらに深く関わっていく必要があると考える。

④ (幼児教育センターについて)

共働きで子育てする世帯が多くなり、子育ての要となるのは保育園ですが、恒常的な保育士不足は全国共通の課題です。

新任保育士が辞めずに働き続け、産休・育休明けに再び正規で働き続けることが、簡単ではないのが保育現場のように感じます。

保育現場のみで新人の育成や教育を行うことはとても困難です。四日市市では公立私立関係なく「四日市市の保育者を育てる」、それを市が責任をもって担うことを実現したのが幼児教育センターであり、瀬戸市の保育課・こども未来課にもぜひ情報共有したいです。

(国の方針について)

国は公共施設の集約・複合化を進めていますが、四日市市の橋北交流会館の構想が始まった時点では、現在ほど強力な財政誘導もなかったと思います。

総事業費約10億円の内、約9億円を市費で賄えたのは四日市市の財政力があってこそであり、自治体の財政力の格差が子育て施策にも直結していることを実感しました。

⑤ どのように学校校舎跡地を活用しているのかという点では、市の保育園と乳児教育センターが主に活用していると感じた。

活用といっても学校施設の規模は広く、民間企業や地元市民だけでは活かすことは難しいことから、子育て施設をメインとして、既存の建物を活かす工夫としては、上手く使っているように感じた。

特に、現在ニーズが高い保育園を配置している点や、幼児教育センターは、ベテラン職員(園長、保育士や教員

	<p>等)さんが、現役の保育士や幼稚園教諭等の相談や研修を実施しながら、特に若い保育士さんや幼稚園教諭さんたちの仕事の悩み等を親身に相談を行い、サポート的な存在として担っており、拠点機能として当該施設を活用していることは、瀬戸市の跡地活用にも大いに参考となると思う。</p> <p>⑥ 今回視察した橋北交流会館は 1992 年に建てられ築 30 年と公共施設跡地にしては比較的新しい建物であり、東橋北小学校の跡地を総合計画において公共施設の有効活用として位置づけており、耐用年数も多く残っていることから建物を撤去することなく活用して行くという結論に至った。</p> <p>1・2階は認定こども園、3階は幼児教育センター、4階はこども子育て交流プラザとなっており、今回認定こども園は見学できなかったが、3階の幼児教育センターでは保育を対象に全体研修や経験年数に応じた実践力を積み重ねる研修、専門性を高める専門研修、などが行われていた。その他、保育士からのさまざまな相談に対して支援が行われ、保育士の駆け込み寺的な存在となっていた。4階こども子育て交流プラザは、交流室、キッチンルーム、多目的ホール、工作室、図書館で構成されており、利用者が自分に合った活用がされており、世代にあった活用がされていた。ただ、このような施設において高齢者の利用できるスペースがないのが意外である。</p> <p>本市においても今後統廃合により発生する公共施設の跡地利用が課題となるが、今回のケースと違って耐用年数も少ないためどのように活用するかが課題である。</p>
<p>7 その他 (特記事項等)</p>	